

2022 年 9 月 14 日、朝 8 時 15 分に東陽町に 35 名のメンバー（うち 7 名は観光協会）が集合し、日の丸自動車の大型バスで行田に向かった。幸い、少し暑いけど天気には恵まれて、渋滞もなく、快適なバス旅行であった。

最初に訪ねたのは行田市商工センターで、一般社団法人「行田市おもてなし観光局」事務局長の富山紀和様から小一時間、花手水（はなちょうず）のまちづくり、DMO の大切さ、SNS 情報発信の大切さなどの話を伺った。丁度お昼になったので「鯔割烹ふじみ」で昼食となり、これがまた大変に素晴らしいものでした。いよいよ現場へ。

最初は行田八幡神社。創建は平安時代中期に源頼義・源義家が、奥州討伐のために滞陣した時に、戦勝を祈願して勧請されたと伝えられているが、火災により資料焼失のため詳細は分からない。現在の社殿は平成元年に竣工したものである。続いて忍城（おしじょう）跡を訪ねた。忍城は室町時代中期に築城されたと伝えられており、豊臣秀吉の小田原征伐に続く忍城水攻めに耐え抜いた逸話から浮き城または亀城と称された。明治維新後、廃藩置県と同時に廃城となり、明治 6 年に土塁の一部を残して取り壊されたが、本丸跡には戦後、御三階櫓が再建された。ここには郷土博物館が併設されており、「足袋」産業の歴史などを勉強した。続いて古代蓮会館の 50m タワーに昇り、「田んぼアート」を鑑賞した。横 150m、縦 200m くらいの田んぼに見事な絵が 3 枚浮かび上がり、その出来栄の良さに感嘆の声が上がっていた。緑、白、赤、黒の 4 色の稲で描いているという。午後 6 時前に無事東陽町に到着した。前方後円墳を訪ねなかったのが少し残念。

小浪博英、田中貴子（本会理事）



\*\*\*\*\*

## 小浪博英先生追悼記事

本会副理事長の小浪博英さんが 2022 年 12 月 17 日に亡くなられました。

東京大学工学部都市工学科を卒業後、建設省に入り、その後、国土庁、京都府、愛知県、福島県、住宅都市整備公団、地域振興整備公団に勤務され、ハーバード大学に留学、フィリピン大学客員教授もされました。

1996 年退官後、東洋大学国際地域学部創設、東京女学館大学創設に尽力され、2008 年から帝京平成大学の現代ライフ学部教授になられました。本会にご参加いただいたのはこの頃からで、理事会、総会、水彩サロン、水彩フェスティバル、リバーフェスタ江東、明治丸シンポジウム、お江戸深川さくらまつり、などにも足繁く通っていただきました。理事会の日程は小浪さんの予定を聞いてから決め、理事会後のやきとり道場での懇談会は貴重で有意義な時間でした。明治丸シンポジウムの実行委員会の時も、来る前に越中島の養老の滝で本日のサービスメニューをチェックされて、会議の後に必ず寄って懇談したことも忘れられない思い出です。9 月には観光協会の視察会で行田にも行ってくださったほどお元気だったので残念な思いで一杯です。やさしい人柄に接した会員一同より心から御冥福をお祈りいたします。



\*\*\*\*\*



Vol.40



## 江東旧中川水彩パーク 指定管理が始まりました！

令和 5 年 4 月 1 日から、江東旧中川水彩パークの指定管理が始まっています。物林株式会社、株式会社ティンバースケーブと、江東区の水辺に親しむ会の JV 事業になります。

公園の場所や旧中川の歴史などは、ホームページ等で検索していただくこととして、とにかく緑豊かな広がりのある水辺空間です。これまでも、リバーフェスタ江東や、夜の水彩カフェテラス、ポートフェスタといったイベントを『もっと日常的に水辺を楽しめる空間にしたい』、という思いで続けてきました。今後は公園の管理者として、活動をより充実できればと考えています。会としても新たな試みです。今後ともご協力よろしくお祈りします。

賑わい施設は北欧風のカフェになりました。これまでは土日祝しか空いていなかったのですが、火、水以外は 9 時から 17 時まで営業している他、金、土曜日は夜営業もしています。散歩途中に寄る方などが結構いて、朝からゆったり過ごしていただいているようです。

水辺に親しむ会としては、これまでの経験を生かして、年 4

回のイベントを計画しています。また、公園の緑地の一部を地域の方と一緒ににつくっていく、ガーデンクラブもお手伝いします。まだ始まったばかりですが、カヌーの会や町会といった地域の方々もいろいろ教えてください。物林さんも豊洲ぐるり公園で指定管理の実績があるので、大変ですけど心強いです。

私は、土日祝はだいたい公園事務所におります。ぜひ遊びにいらしてください。皆さんとお話できるのを楽しみにしています。

あ、それと、水辺に親しむ会のインスタもフォローお願いします！

本会員 飯田とわ

江東区の水辺に親しむ会 インスタグラム

<https://www.instagram.com/koto.mizube/>

江東旧中川水彩パーク HP : <https://koto-suisaipark.jp/>

江東旧中川水彩パーク インスタグラム

<https://www.instagram.com/koto.suisaipark/>



## 水辺便り Letter

### 水辺から楽しむ弘前の桜

河口 英毅

青森県西部・津軽地方に「弘前(ひろさき)」という街があります。この街は江戸時代から城下町として栄え、今でも「弘前城」や「外人宣教師館」など歴史的な建築物が数多く残されており、私は仕事の関係で約1年この街に住んでおりました。今回はその中で最も印象に残った「桜と水辺」について書いてみたいと思います。

りんご、岩木山、弘前ねぶた、津軽三味線など、様々な観光資源を有している弘前ですが、1年で最も人が訪れるのは春・桜の季節です。少し遅めの4月下旬に満開となり、約1週間ほどであっという間に散ってしまいます。そんな儂くも美しい桜は、街の中心・弘前城の周りに咲くのですが、切っても切り離せないのが水辺、つまりお堀です。

お堀の水面は川と違い「流れ」がないため、まるで鏡のように鮮明に桜を映します。昼に見るのも良いですが、私としては夜にライトアップされた桜が特に好きでした(写真)。夜のライトアップとは便利なもので、余計なものは排除し美しい桜だけにスポットを当ててくれます。非常に贅沢な楽しみ方です。また橋の上から眺めてみると、水面の桜もあわせ360°が桜に囲まれ、まるで「桜の中にいる」ような幻想的な体験ができます。

さらにもう1つの楽しみ方として、「花筏」というものがあります。散った無数の花びらが水面に浮かび、お堀一面がピンクに染まるのです。儂くも4、5日で散ってしまう桜ですが、これがあるのもう2、3日愛でることができます。特に花筏の間を小舟がかけ分けていく様子などは非常に趣深く、一度は乗船してみたいものです。

このように弘前の桜と水辺は切っても切り離せない関係にあります。その2つが織りなす開放的な雰囲気は人を穏やかにし、街を穏やかにするのだと思います。厳しく長い冬があっても、これがあるから暮らしていけるのでしょう。約1年間本当にお世話になりました。

現在は弘前を離れ、新天地・秋田で暮らしています。次はどんな水辺と暮らしを見つけられるか、楽しみです。



## 《その3 高橋》高浦秀明(橋梁設計士)

高橋(たかばし)は小名木川に最初に建設された橋です。小名木川の開削は天正18年(1590)家康が入府して最初の事業でした。高橋がいつできたのかの記録はありませんが、小名木川が開削されてすぐ建設されたと想定されます。この時点で小名木川はほぼ江戸湾に面した海岸線でした。

江戸時代を通し小名木川には萬年橋、高橋、新高橋の3橋だけがありました。橋のない場所では渡し舟が設けられていました。

北斎の名作「高橋の富士」は大変高い橋脚の上に橋が乗っている印象的な絵です。これは正しいのでしょうかあるいは誇張なのでしょうか。

確かに高橋は背が高かったという別の記録もあります。橋台部で7~8丈(21から24m)川岸でもかなり高いこととなります。この寸法では5階から6階建ての高さとなります。

この絵が正しいと仮定して高さを推定すれば、橋台の間が30mとして中央スパンが約15mで橋脚はさらに高いので20mくらいになります。木材を途中で継ぎをしないでこの高さは難しいです。常識的に考えたら隅田川の橋の桁下より低いはずで、また河口の萬年橋より高いのも不自然です。



明治初年の小名木川に架かっていたのは、萬年橋、高橋、新高橋、自久橋、中之橋、銚子場橋、榎本橋でした。(東京府志料) 銚子場橋と榎本橋は支流に架けられていたので、小名木川には5橋となります。

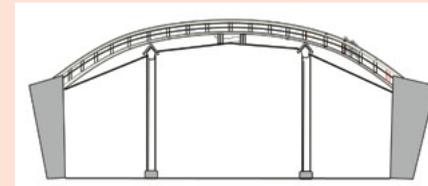
高橋の近くには船着き場があり、町も繁盛していました。昭和10年ごろまでここから浦安行きポンポン蒸気が連絡していました。

木製の橋が鉄製になったのは明治33年からです。鉛直材を装飾で隠した単アーチで、同時代の万世橋や江戸橋にあるタイプです。

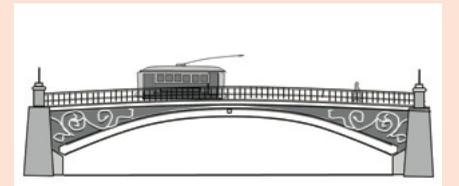
昭和6年に震災復興橋梁に架け替えられました。25mのアーチが2連でした。

1600年から2000年で30年毎としても13回程度は架け替えられていると考えられます。

現在の橋は昭和48年に建設された鋼桁橋です。東深川橋や大富橋に似ています。今までのたかばしの歴史からすると特徴のない形をしています。



江戸時代の高橋。北斎の表現から少しづつ作画してみました。これでも高さ約10mです。



明治33年の鉄アーチ。唐草文様が時代を忍ばせませ。路面電車が乗っています。関東大震災の被害は報告されていませんが、スパン、幅員とも短かったため、震災復興橋梁では長さ、幅員とも約倍になりました。

最寄り駅: 地下鉄半蔵門線・大江戸線清澄白河駅歩5分。昭和48年(1973)建設。

一つづく